

## ■効果の見える海岸事業

### 徳島県 穴喰浦海岸の耐震対策

平成20年度から海岸耐震対策緊急事業新規着手

徳島県河川課長 森兼永一郎



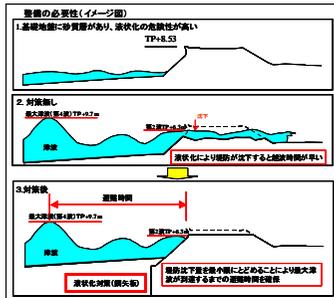
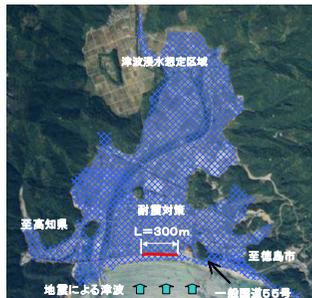
- 事業概要 穴喰浦海岸は、徳島県南端で高知県との県境に位置し、室戸阿南海岸国定公園に属する景勝地であり、観光のみならず、サーフィン等のマリレジャーを目的として、県内外からの利用者が年間を通じ絶えない状況となっております。
- 当海岸は、昭和南海地震(1946)において、津波による被災履歴があり、今後30年以内に50%の確率で発生が予測されている南海地震発生時には、津波高が高く、地盤の液状化により堤防が著しく沈下することが想定されており、津波による甚大な被害の発生が危惧されております。
- そのため、海岸における堤防・護岸の耐震対策を緊急的に実施し、大規模地震発生時の堤防・護岸の防護機能低下による浸水被害を防止し、人命や資産被害の軽減を図ることを目的とした「海岸耐震対策緊急事業」に「穴喰浦海岸」が平成20年度新規採択されました。
- 本事業により、地震時の液状化による堤防の沈下量を最小限にとどめ、最大津波が到達するまでの避難時間を確保することにより、徳島県の目指している「南海地震発生時の死者ゼロ」にも十分な効果が発現されるため、平成20年度、堤防の耐震対策(鋼矢板工法による液状化対策)に着手いたします。
- 今後とも、「安全・安心とくしま」の実現に向けた海岸事業を、より一層取り組んで参りたいと考えております。

- 施行箇所 徳島県海部郡海陽町穴喰地先  
 ○施行期間 平成20年度～平成24年度(予定)  
 ○施行内容 鋼矢板工(液状化対策) L=300m

昭和南海地震被害写真(徳島県南部沿岸)



写真提供: 気象庁



## □穴喰浦海岸の海岸整備に期待すること

徳島県 海陽町長  
 ごけんや けんじ  
 五軒家 憲次



海陽町は、徳島県の最南端、高知県との県境に位置し、平成18年3月31日に海部郡下灘3町(海南町、海部町、穴喰町)が合併して誕生しました。

本町には、日本の滝百選に選ばれた「轟の滝」、鮎で名高い「清流海部川」、国指定の「竹ヶ島海中公園」など、数多くの観光スポットがあり、毎年たくさんの観光客が訪れています。又、国の天然記念物である「化石漣痕」、「母川のオオウナギ」、「ヤッコソウ」など、学術的に貴重な地層や動植物が見られる自然豊かな町です。

一方、夏から秋にかけての台風シーズンには常時台風の通り道にあたることや、海岸の地形的な原因により、過去に何度も台風や津波による大きな被害を受けています。特に、昭和21年12月21日に起きた南海地震では、浅川地区と穴喰浦地区において甚大な被害が発生し、何人もの尊い命が奪われました。本町では、この昭和南海地震を忘れないために、二度とこのような犠牲を出さないために、毎年12月の早朝、津波の浸水が想定される全地域において住民参加の津波避難訓練を実施するなど、常に防災の意識を持った町です。

穴喰浦海岸は、旧穴喰町中心地域の東側に位置し、昭和30年頃までは、緑の松林と白い砂浜が印象的な海岸でしたが、現在は、台風などの大潮から住民を守る堤防が出来、それに平行して一般国道55号が走っています。旧穴喰町は、昭和南海地震以前にも、安政(1854年)・宝永(1707年)・慶長(1605年)の南海地震において大変な被害を受けたことが文献に記されており、「土地が裂け泥水が吹き上げ」といった液状化を表した記述が何度も出てきます。当海岸は、写真のように水平線まで遮蔽物が無く、左右を半島と島々で囲まれた地形のため、津波の高さが大きく破壊力が強いとされており、地域住民からも、液状化による堤防の沈下と津波による堤防の決壊を懸念する声が少なくありません。

この度、穴喰浦海岸が、平成20年度海岸耐震対策緊急事業に新規採択され、地質調査に基づいた耐震対策工事が実施されるとのことであり、工事の完成により、地域住民全員の生命が守られるものと大きな期待を寄せています。

今後とも、住民一人ひとりの安全に対する意識の高揚を図り「安全で安心して暮らせるまちづくり」に努めて参りたいと考えております。



○道の駅から水平線を望む



○堤防全景